「学校フィールドを活用した体験・フードバンク活動を通したソーシャルキャピタル醸成への取り組み」

青森県立五所川原農林高等学校生物生産科
◎秋田谷　笙、佐藤　里湖、白戸　沙良、寺山　瑠音、川浪　颯太、成田　圭佑、山ノ内　睦之

【みどり戦略との関連性】環境にやさしい持続可能な消費の拡大や食育の推進

１　目　的

昨年まで、毎月１回の子ども食堂の運営補助に携わり、幅広い年代の方々との交流を通じてソーシャルキャピタルの重要性について体験的に学んできました。しかし、今年度、運営母体の都合もあり、活動が休止することになりました。本活動の歩みを止めたくないと考え、生徒主体で運営することとして、本校フィールドを活用した体験活動と、ご協力いただける企業体からの寄贈によるフードパントリーの活動継続を計画しました。これによって参加する子ども達のコミュニケーションスキルと自己肯定感の向上に加え、フードロス削減へ継続して取り組むことで、持続可能な消費の取り組みを目的に活動を行っています。

２　取組内容

調理場所や衛生管理の点から、食事の提供をせずに、学校のフィールドを活用した体験活動をメインに２ヶ月に１回程度の頻度で活動を計画・実施中です。

第１回　令和７年　５月１８日（日）田植え体験交流会
第２回　令和７年　７月２７日（日）夏まつり交流会（酷暑のため体育館で実施）
第３回　令和７年　９月２８日（日）稲刈り体験交流会
第４回　令和７年１２月２１日（日）※予定　クリスマス制作体験会
第５回　令和８年　２月２２日（日）※予定　「タイトル未定」

活動の告知：子ども食堂運営母体に依頼し、Instagram 等のソーシャルメディアで開催告知・募集
事 前 準 備：会場や使用物品を事前調査して、危険因子リスクを確認後に、シミュレーション
申込数に合わせてお預かりした食品を袋・箱詰め
開 催 当 日：横断幕を掲げてお出迎え、体験活動補助・フードパントリーを合わせて約２時間半程度の時間で実施、次回告知とお見送り

３　結　果

１）参加者の傾向

	大人	子ども	合計
第１回	３	５	８名
第２回	１４	１７	３１名
第３回	１０	８	１８名
		合計	５７名

２）フードパントリー取扱数量

	家族数	kg/個	小計
第１回	３	7.5	22.5kg
第２回	１２	3.5	42.0kg
第３回	７	8.5	59.5kg
		合計	124.0kg

配付された食品

お菓子、洋菓子、フルーツ、農産物、ジュースなどその時々でお渡しする品が変わります。

・田植え体験会では保護者から、「田植え体験ができる場所も減って、今回は貴重な機会でありがたい」との言葉をいただいた。

・夏祭りでは手作りで射的やヒモくじ、ボウリングに的当てフリスビー等、７種類の体験ブースを開設した。特に人気が高かったのは、本校ビオトープより採取したザリガニ釣りコーナーが盛況だった。

・稲刈り体験会では、親子で刈り取り・結束・棒がけの作業を協力する姿が印象的だった。普段何気なく食べているお米の生産作業の大変さを知り、「もっとよく味わって大事に食べなきゃね」等の会話が聞かれた。

４　考察・まとめ（SDGｓの開発目標に照らし合わせると）

【１】貧困を無くそう → フードバンク活動による食品ロス軽減と栽培体験による食育の推進
【４】質の高い教育をみんなに → 豊かな体験活動の場を提供し、実体験を通して自己肯定感の向上
【11】住み続けられる街づくりを → 学校と生徒のアイディアを活用した地域で支える子どもの成長・繋がり

地元の農業高校のフィールドを最大限活用し、成功体験だけではなく、失敗・困難など様々な壁をみんなで協力して乗り越えることにより、体験活動を通した自己肯定感の向上と、心の豊かさを育む活動が展開できました。

今後は、本活動に対する参加者からのアンケート調査を実施し、来年に向けて改善点等を見つけ、話し合いを基に新年度に向けた新たな活動計画を立てる予定です。